

小中一貫教育 ● 連載 No.25 ●

学校に行くなら多久 教育するなら多久
小中一貫教育3年目の新たな挑戦

■問い合わせ 教育委員会 学校教育課 ☎75-12227

今月号では、県内外からすでに60回を超える行政視察を受けている小中一貫教育3年目の重点目標と特徴を紹介いたします。

多久市学校づくり教育理念の4つの重点目標

1. 「確かな学力」と「豊かな心」を醸成する

●小中一貫校の特色を活かし、小中教職員の協働力を発揮した乗り入れ授業を実践します。

●「命の授業」や「ふれあい道徳授業」を通して、児童生徒の心を豊かに育みます。



▶東部校「命の授業」

2. 地域力を活かし、地域とともに「学校づくり」を推進する

●文部科学省の研究委嘱を受け、平成27・28年度に地域力を活用した「コミュニティ・スクール（地域とともにある学校）」の導入・実践に取り組みます。

3. 行政と連携した「教育環境の整備」の推進

●学校教育力の充実にめざし、ICT支援員の配置やICT機器の整備、特別支援教育の充実を目指すため学校教育支援員の複数配置など、児童生徒の教育環境を計画的に整備・推進します。

4. 教職員の質を高める「多久市教育研究会の活性化」を図ります

●多久市小中一貫教育研究発表会を11月13日(金)に開催し、保護者や地域のみならず、また、県内外の教職員が集い、小中一貫教育のあり方を検証します。

4月の定例教育委員会のお知らせ

日時 4月9日(木) 13時

場所 市役所 第2委員会室（自由に傍聴できます）

■問い合わせ 教育委員会 教育総務課 ☎75-13450

学校と家庭と地域が連携し、児童生徒に身に付けさせたい力

1. 元気な声で、明るく「挨拶」する子
2. 進んで体を動かし「掃除」をする子
3. 自分の「命」を大切にする子
4. 進んで家庭で「自学」に取り組む子
5. 自分の思いを「言葉」で伝え合う子



小中一貫教育3段階の区切りを活かす

学力向上や「中一ギャップ」と呼ばれる不登校や問題行動等を解決する目標を掲げ、義務教育9年の滑らかな接続をめざします。

具体的には、義務教育9年間を前期・中期・後期の3段階に区切るとともに、異なる学年同士の行事や授業に計画的に取り組みます。

1. 前期…基礎期（1～4年生）学びの習慣化
2. 中期…充実期（5～7年生）学び方の定着・発展
3. 後期…発展期（8～9年生）自己学習力の形成

特に、中期段階では、小学校担任と中学校教科専任の先生との2人体制での指導を年間を通して実践し、小学部の先生の丁寧な指導と中学部の先生の専門性を生かした授業展開を工夫・実践し、学習成果を高めています。



▶中央校5年・7年生
乗り入れ授業

食に関する指導のプロ「栄養教諭」に聞く！

今月号では、市内一貫校で食育や学校給食に携わる、栄養のプロ「栄養教諭」にインタビューを行いました。



中央校栄養教諭

森川 知恵 さん

Q. 「栄養教諭」は、どんな仕事ですか？

食育の授業、学校給食など児童生徒の食に携わる、サポートする役目を学校で担っています。主に、午前は給食センターで、午後は学校で勤務しています。

Q. 学校での食育指導の内容を教えてください。

例えば1年生なら「野菜と友達になろう」など、学年毎にテーマを決め、各校の給食主任に提案し、1クラス当たり年1～2回、食育の授業を行っています。

Q. 学校での給食の様子は、いかがですか？

低学年は特に給食を楽しむ様子が見られます。1年生であっても、マナーや基本姿勢が身に付いています。一方、気になる点は好き嫌いの多い子どもがいることです。インゲン豆やピーマンを「これは苦手」と言っていて食べない子もいれば、なるべく食べようと努力する子もいます。

Q. 給食献立にどんな工夫をされていますか？

まず地域の食材、多久産の食材を入れること。農協や生産者と連携して「地産地消」を心掛けています。次に栄養のバランス、煮物や魚といった和食を献立に入れること、菜の花など季節感を感じられる旬の食材の提供に努めています。

給食や授業中の会話をとおして子どもたちの思いに寄り添い、「食の大切さ」を説くことがやがていと語る森川先生。

生きることは食べること、命を頂くこと…。改めて感じたインタビューでした。